

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年 学級活動・特別活動	時数等	年間
目標・人権教育のねらい	教科等横断的・系統的な学習カリキュラムによって、子供一人ひとりの人権感覚やその感性を磨き、温かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくりを進めることによって、自他の大切さを認め、いじめや差別を解決できる態度を養うとともに、様々な人権課題を自分事としてとらえ、差別をなくそうとする行動力を高める。				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員で組織する3つの分掌（研修部・生徒指導部・特別活動部）それぞれが、目指す児童の姿を明確にし、「ポジティブ・フォーカス」と「ボイスシャワー」の2つの視点による積極的な言葉かけにより、児童の自己肯定感を高める。（全ての教育活動） ・下級生が楽しく交流できるような異学年交流活動を4～6年生が企画し、互いを認め合い思いやる心の育成を目指した「ハッピータイム」や「みそのっこ文化祭」の活動時間を設ける。（業間+1時間） ・「子供主体のルールづくり」に向けて、市内小中学校全7校の代表児童生徒が集まるWebミーティングに参画するために、「小中学生・教師・保護者のみんなが幸せになるICTの使い方」というテーマに沿って、学級ごとの意見を出し合って協議する。（2時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいところ見つけ」の取組により、友達の良いところを見つけ、相手に伝えたり、全体に感想を広める仕掛けを施すことで、互いを認め・認められる関係性の構築を目指した。 				
他教科との関連	全ての教育活動において、「聴くことはやさしさ」という価値づけを常に図りながら、相手の話を受容的に聴き、互いを認め・認められる関係性の構築を目指した。				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「友達の考えと比べながら聞いたり話したりすることができましたか」 事業開始時 85.9%→事業終了間際 89.3% （R5学校評価・児童アンケートより） ・価値・態度的側面：「周りの人にやさしくしてもらっていますか」 事業開始時 93.4%→事業終了間際 94.4% ・技能的側面：「自分や友達のよいところを見つけていますか」 事業開始時 88.7%→事業終了間際 91.5% 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	小学3年生 総合的な学習の時間	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	地域における多文化共生を目指した活動を通して、言語・文化・習慣などの外国との相違点を楽しみ、外国人に対する偏見や差別について理解し、地域の一員として、外国人と共に生きられる社会（多文化共生）の在り方を自分なりに考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市の国際交流員との交流場面において、外国人が住みやすいと感じる野々市市のよさもある一方で、生活のしにくさから改善してほしい面もあるという現状を知る。（1時間） ・多文化共生の実践例を知ったり、国際交流員の方と一緒に話し合ったりしながら、外国人と共に生きていく上で、自分にできることについて考える。（1時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本人」と「外国人」の双方の立場に立って気持ちを考えたり、共感したりすることで、野々市市の取組のよさや改善点をより身近な物事として考えられるようにした。 ・地域で活躍されている「国際交流員」と関わったり、多文化共生の身近な事例を知ったりすることで、児童と外国人との距離を近づけ、自分事として考えられるようにした。 				
他教科との 関連	特別の教科 道徳 内容項目C「国際理解、国際親善」の学習において、総合的な学習の時間での学びを想起し、外国の人々の生活や文化の理解をより深め、多文化共生へ向けて自分にできることを考えた。				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「異文化を理解しよう」→振り返りの記述内容からも、文化や生活習慣の違いや、外国人に対する偏見や差別があることを理解できている。 ・価値・態度的側面：「自分事としてとらえよう」→当事者の気持ちを共感的に捉え、自分はどんなことに協力できるのか考えようとしていた。 ・技能的側面：「自分や友達のよいところを見つけられていますか」 <p>事業開始時 88.7%→事業終了間際 91.5%</p>				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	小学4年生 総合的な学習の時間	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々の伝統文化的に触れて知ることにより、自分と異なる文化を受け入れ尊重する。 ・自分とアイヌの人々の文化の違いを通して得た知識や友達の考えを生かしながら、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分なりの考えをもって取り組もうとする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々の文化について、見たり触れたりする体験的な活動を通して、自分たちの文化と比べながら、アイヌの人々の文化を理解する。（1時間） ・アイヌの人々の文化が十分に保存・伝承が図られていない現状を知り、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分にもできることを考える。（1時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な衣服や工芸品を見たり触れたりするなどの体験を通して、アイヌの人々の文化について親しみをもたせた。 ・異文化を持つ人達の立場に立って気持ちを考えたり、共感したりすることで、形式的な理解だけで終わらせないようにした。 				
他教科との関連	<p>特別の教科 道徳 内容項目C 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の学習において、総合的な学習の時間の学びを想起し、自国の文化を理解し大切にすること、自分に何ができるか等について、改めて考えた。</p>				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「異文化を理解しよう」→振り返りの記述内容からも、自分達とは異なる文化の存在を知り、どの文化も尊重されるべきものであることを理解できている。 ・価値・態度的側面：「お互いの良さを知ろう」→考え方や思いが違って、相手も大切に、一旦受け入れようとしている。 ・技能的側面：「聴くことはやさしさ」→自分と異なる意見であっても、最後まで傾聴することができている。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	小学4年生 総合的な学習の時間	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者体験を通して、高齢者には心身に支援が必要な場合があることを理解する。 ・高齢者が抱える課題に触れることを通して、高齢者も含めたみんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分なりの考えをもって取り組もうとする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者体験として、高齢者の抱える課題を疑似体験し、自分の今の状況と比べながら、高齢者への理解を深める。（1時間） ・高齢者が暮らしやすい町にするための野々市市の取組を調べ、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分にもできることを考える。（3時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者体験をすることで、高齢者の課題を自分事として捉えられるようにした。 ・高齢者の立場に立って気持ちを考えたり、共感したりすることで、形式的な理解だけで終わらせないようにした。 				
他教科との 関連	<p>特別の教科 道徳 内容項目 B 「親切、思いやり」の学習において、総合的な学習の時間の学びを想起し、相手の立場に立って考えること、自分に何ができるか等について、改めて考えた。</p>				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「具体的な支援について理解を深める」→高齢者の必要とする身体的な支援や心のケア等について理解する姿が見られた。 ・価値・態度的側面：「自分事としてとらえよう」→当事者の気持ちを共感的に捉え、共に住みやすい環境にするために、具体的に自分にできることはないか考えていた。 ・技能的側面：「自分や友達のよいところを見つけていますか」 事業開始時 88.7%→事業終了間際 91.5% 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	小学4年生 総合的な学習の時間	時数等	8時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者体験を通して、障害者が抱える課題を理解する。 ・ 障害のある人もない人も共に暮らしやすい町づくりへ向けて、自分なりの考えをもって取り組もうとする。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の抱える課題の疑似体験を通して、自分の今の状況と比べながら、障害者への理解を深める。（2時間） ・ 障害者が暮らしやすい町にするための野々市市の取組を調べ、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分にもできることを考える。（3時間） ・ 障害がありながらも、自分の得意なことに取り組む方々による実演や講話（みそのコンサート、ブラインドサッカー）を通して、明るく前向きに生きる姿勢を学ぶ。（3時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点字で伝え合う活動を体験することにより、目が不自由な人を身近に感じられるようにした。 ・ 合理的配慮の提供について扱うときには、障害者の様子のマイナス面ばかりに目がいかないよう配慮した。 				
他教科との 関連	<p>特別の教科 道徳 内容項目 B「親切、思いやり」の学習において、総合的な学習の時間の学びを想起し、相手の立場に立って考えること、自分に何ができるか等について、改めて考えた。</p>				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識的側面：「関連用語の理解を深める」→「合理的配慮」や「ヘルプマーク」、「ユニバーサルデザイン」等、関連する知識を増やすことができています。 ・ 価値・態度的側面：「自分事としてとらえよう」→当事者の気持ちを共感的に捉え、自分にもできることがないかを具体的に考えることができています。 ・ 技能的側面：「自分や友達の良いところを見つけていますか」 事業開始時 88.7%→事業終了間際 91.5% 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	石川県	学校名	野々市市立 御園小学校		
人権課題	インターネット	対象学年・ 取り扱った教科等	小学1・2年生 道徳・学級活動	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	約束やきまりを守らないとどうなるかについて考えることを通して、ルールを守ると自分も周りの人も気持ちよく過ごせることに気付き、ルールを守ろうとする心情を育てる。				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の使用を開始する前に実施する「GIGAびらき」の授業において、『みそのGIGAスクール宣言』の読み合わせを行いながら、情報モラルと活用スキルの両面についての理解を深める。（1時間） ・特別な教科 道徳 の学習において「ルールがないとどうなるの？—スマホやゲームきをつかうとき—（光文書院1年）」、「おかあさんとのやくそく（光文書院2年）」の教材をもとに、話し合いや交流を行い、使い方やルールについての理解を深める。（各1時間） 				
工夫した点	1人1台端末の使用に関するルールと本時の学習をつなげることで、顔が見えない相手のことを思いやる気持ちの大切さに気付かせることを意識した。				
他教科との 関連	全ての教科における、1人1台端末の活用場面				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「端末利用のルールとその意義を知る」→授業時の発言からも、適切な利用に関する知識は定着している。 ・価値・態度的側面：「インターネット使用時は、自分の周りの人のことも考えよう」→相手を思いやることの大切さを踏まえられた振り返りの記述内容となっている。 ・技能的側面：「危険な場面やその回避策について主体的に考えることができる」→授業時の発言から、自分の言葉で説明できる児童が増えている。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	石川県		学校名	野々市市立 御園小学校	
人権課題	インターネット	対象学年・ 取り扱った教科等	小学5年生 社会科・国語科・学級活動	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	情報の送り手・受け手、双方の立場に立って、情報の適切な活用の仕方について考えようとする態度を養う。				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科「情報を生かすわたしたち」の学習において、インターネットを使って情報を活用する際に気を付けることについての研究授業を実施する。（1時間） ・国語科「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書1年）の学習において、「メディアとのかかわり」に関する意見文を書く活動を実施する。（2時間） ・石川県警察白山警察署と連携し、警察官をゲストティーチャーに招いて、非行防止教室「ピュアキッズスクール（ネットトラブルについて）」を実施する。（1時間） 				
工夫した点	フェイクニュース問題について考えるという具体的な学習活動を設定することで、情報の送り手・受け手、双方の立場から、この問題が起きた要因について考えることや、一度立ち止まって考えることの重要性を意識させた。				
他教科との関連	国語科「想像力のスイッチを入れよう」				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「インターネットの利用に関する様々なトラブルを知る」→振り返りの記述や授業時の発言からも、児童の知識量は豊かになっている。 ・価値・態度的側面：「インターネットを使用する際には、被害者にも加害者にもなり得ることを意識して活用しなくてはいけない。」→1人1台端末を適切に利用できている。 ・技能的側面：「情報の受け手・送り手の双方の立場に立って、インターネットに関する諸問題を捉えることができる」→市全体で取り組む情報モラルのルール策定会議においても、学校として発表する意見には人権配慮の視点が反映されている。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	石川県	学校名	野々市市立 御園小学校
人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・ 取り扱った教科等	小学6年生 体育科（保健）
		時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	感染症に対する正しい知識と予防法を身につけるとともに、偏見や差別をなくそうとする態度を育てる。		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で、法務省人権アーカイブ・シリーズ『ハンセン病問題』資料をもとに、教師が「ハンセン病」の説明を行い、児童に対して病気及び感染症に対する正しい認識を持たせることで、より学びが深まるようにする。（1時間） 		
工夫した点	新型コロナウイルス感染症の初期流行期においても、社会的に患者への偏見や差別が生じていたことから、自分事として考えられるよう関連づけて学習内容を組み立てた。		
他教科との 関連	保健「感染症の予防」		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：「偏見や差別をなくすための手立てを知る」→振り返りの記述や授業時の発言からも、児童の知識量は豊かになっている。 ・価値・態度的側面：「自分事としてとらえよう」→当事者の気持ちを共感的に考え、自分にもできることがないかを具体的に考えることができている。 ・技能的側面：「情報を見極めて正しく判断する」→授業時の発言から、情報をうのみにすることなく、精査をしてから対話に入ることができる児童が増えている。 		